

都市再生整備計画 事後評価シート
道志地区

平成29年3月

山梨県道志村

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	山梨県		市町村名	道志村		地区名	道志地区			面積	980ha			
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	100.5百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路:村道(大室指線)、地域生活施設:広場(ポケットパーク(3箇所))地域防災施設(無停電装置、防災備蓄倉庫、耐震性貯水槽)										
			提案事業	地域創造支援事業(無停電装置)、事業活用調査(景観計画の策定、事業効果分析調査)										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路:村道(大室指線)	削除/追加の理由			災害時の道路の損壊等に対する不安の高まりから、計画地の地権者(住民)の承諾が得られなくなり事業を削除				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	目標を定量化する指標「防災体制に対する村民の満足度」に影響があるが、目標値は据え置いた。	
			提案事業	事業活用調査(景観計画の策定)	-			村単独費で対応することとしたため事業を削除				影響なし		
	新たに追加した事業		基幹事業	-	-			-				-		
			提案事業	-	-			-				-		
	交付期間の変更		当初	平成24年度～平成28年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-						
		変更	変更なし											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	防災体制に対する村民の満足度	%	48.2	H23	53	H28		35.7	×	あり なし	○	事業により防災機能が向上したことが十分に認識してもらえなかった。そのため、想定した満足度の向上が得られず、目標を達成していない。	-
	指標2	地域防災施設の強化	%	79	H23	82	H28		84	○	あり なし	○	本事業に加え別事業でも耐震性貯水槽を整備したことにより、目標を達した。	-
	指標3	道の駅、道志の湯の来場者数	万人	80	H23	81	H28		86	○	あり なし	○	富士山世界遺産登録による観光客の増加と村の観光PRやイベントの開催への積極的な取り組みにより来場者数が増加し、目標を達した。	H29.4
指標4										あり なし				
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	村内の消防団員数	人	170	H23			172			全国的に消防団員の確保が難しくなる中で、村内の防災活動が活発化し、消防団員数が増加している。	-		
その他の数値指標2														
4)定性的な効果発現状況	防災訓練について、年々、図上訓練の成果が充実してきている。人数の統計はとっていないが、村民の参加意識が高まり、参加者もなだらかに増加傾向にあるように思われる。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	①住民とかなる会の開催 ②住民説明会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 住民とかなる会を継続し、村民の意見を各種事業に反映させていく。事業の実施にあたっては、適切に住民説明会を開催し、住民合意形成を図るとともに、住民意見を事業に積極的に取り入れていく。						
持続的なまちづくり体制の構築	道志村災害支援分団の設置		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 消防団活動の継続に向けて、活動しやすい環境づくりに取り組んでいく。							

様式2-2 地区の概要

道志地区(山梨県道志村) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 快適で安心してすごせる郷づくり 目標1: 誰もが安心してすごせる村づくり 目標2: 村における良好な生活環境の創造	防災体制に対する村民の満足度	単位: %	48.2 H23	53 H28	35.7 H28
	地域防災施設の強化	単位: %	79 H23	82 H28	84 H28
	道の駅、道志の湯の来場者数	単位: 万人	80 H23	81 H28	86 H28

○関連事業
施設間連絡道池之原線
改良舗装整備

無停電装置
(医科・歯科診療所)

□提案事業
無停電装置

無停電装置
(やまゆりセンター)

■基幹事業
無停電装置

防災備蓄倉庫
(長又地区)

■基幹事業
防災備蓄倉庫

防災備蓄倉庫
(室久保地区)

道志村全図

上野原市

道志村役場

主要地方道都留道志線

国道413号

神奈川県

山梨県

0 5km

凡例

○関連事業
国道413号線整備改良

■基幹事業
広場(ポケットパーク)

■基幹事業
耐震性貯水槽

□提案事業
事業効果分析調査

広場(ポケットパーク)
(樺地区)

広場(ポケットパーク)
(みなもと体験館)

広場(ポケットパーク)
(善之木体育館)

耐震性貯水槽
(池之原地区)

<p>まちの課題の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の寸断や集落の孤立などの恐れがあり、防災対策整備が急務である。 ・災害時に観光客等の安全を確保するために、状況の把握と速やかな避難体制の確立、避難場所等の周知が必要である。 ・国道413号の野原・月夜野間は道幅が狭く、急カーブが続いており、交通安全上問題がある。 ・村道は、幅員4m未満の道路が多く、未舗装・未改良の区間があり、地域住民の生活に支障をきたしている。 ・村民意識の向上に向けて地域の防災まちづくり活動を活性化させる必要がある。 ・消防体制について、人口減少に伴い消防団員が減少しており、消防団活動の充実に向けた対策が必要である。 ・避難場所の見直しと周知徹底が必要である。 ・景観計画に位置付けられた施策を推進することにより、地域の魅力の向上を図り、地域活性化につなげていく必要がある。
<p>今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災備蓄倉庫の備蓄品について、数量や配置を把握し、年度ごとに充実する。 ・整備した防災施設を適切に管理し、災害時に有効に活用できるようにする。 ・災害時に適切な活動ができるよう、防災訓練で住民への周知を図るとともに、村民意識の向上を図る。 ・景観計画に基づいて、建築行為等の規制・誘導を行うとともに、豊かな自然環境を活用した景観づくりを推進する。 ・大学との連携による取り組みを継続して行い、地域活性化につなげていく。 ・災害発生個所の把握や・監視に努め、防災対策事業を促進する。 ・防災無線施設の整備や告知端末の全戸設置、一時避難所の整備を推進する。 ・観光客等に対して、日頃から避難場所等について積極的に周知する。 ・国道413号の改良整備を促進し、幹線道路の機能向上を図る。 ・交通量や地元要望を考慮して、村道の改良や舗装を計画的に推進する。 ・消防団員の確保を図るため、団員の処遇改善や活動しやすい環境づくりに取り組む。 ・住民による防災まちづくり活動(避難経路の点検など)を促進する。 ・地域防災計画を見直し、一時避難場所や避難経路を明確にする。 ・景観計画に位置付けている様々な施策を推進することにより、地域の魅力の向上を図り、地域活性化につなげていく

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	村道 大室指線	62.5	L=200m	-	-	住民(地権者)の承諾が得られず削除	目標を定量化する指標「防災体制に対する村民の満足度」に影響があるが、目標値は据え置いた。	-	
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	広場 ポケットパーク(3箇所)	23	A=700㎡程度	23	A=500㎡~1,300㎡程度	事業箇所の変更	影響なし	○	
地域生活基盤施設	地域防災施設 無停電装置	38	超低騒音形 (75db)50Hz	33.5	超低騒音形 (75db)50Hz	入札結果に伴う事業費の変更	影響なし	○	
地域生活基盤施設	地域防災施設 防災備蓄倉庫	6	A=9.0㎡程度	6	A=9.0㎡程度	変更なし	影響なし	○	
地域生活基盤施設	地域防災施設 耐震性貯水槽	22	60㎡型	22	60㎡型	事業箇所の変更	影響なし	○	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	モニタリング	事後評価	見込み	達成度	達成度	あり	なし	
指標1	%	平成28年11月に村全世帯を対象にアンケート調査を実施し、防災体制に対して、「評価する」と回答した割合を計測し、評価値とする。			48.2	H23	53	H28	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	○	35.7	事後評価	×		○
指標2	%	平成28年10月現在の村内の耐震性貯水槽設置箇所数と地域防災計画で計画している水利基準(79基)との比率を計測し、評価値とする。			79	H23	82	H28	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	○	84	事後評価	○		
指標3	万人	村産業振興課資料より、平成27年度一年間の来場者数を計測し、評価値とする。			80	H23	81	H28	モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	○	86	事後評価	○		
指標4									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	見込み		事後評価			
指標5									モニタリング			モニタリング				
									事後評価	確定	見込み		事後評価			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	アンケート調査結果において、「評価する」と回答した割合が低下しており、目標値に達していない。また、事業が概ね完了していることから、1年以内の達成見込みはないものと考えられる。	満足度について5段階の回答のうち、「評価する」という回答だけを評価対象としたことから、評価が低くなってしまった。 「評価する」と回答した割合は低下しているが、「評価する」と「どちらかといえば評価する」を合計した割合は、79.4%から80.2%に向上している。
指標2	平成24年度から平成28年度までの5年間で、2基の耐震性貯水槽を整備する計画であったが、3基の整備を実施し、目標を達成した。	
指標3	道の駅、道志の湯の来場者は、平成23年度に比べ約6万人増加し目標値を大きく上回り、目標を達成した。	
指標4		
指標5		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度							
その他の数値指標1	村内の消防団員数	人	村総務課資料より、平成23年度から平成27年度各年の消防団員数を計測し、評価値とする。			170	H23	モニタリング		172	防災施設の整備に伴って、地域の防災意識が高まり、活動が活発化していることを示す指標として取り上げる。	H23年以降減少傾向にあったが、平成28年度に大幅に増加している。
								事後評価	確定見込み ●			
その他の数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			
その他の数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定見込み			

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

防災訓練について、年々、図上訓練の成果が充実してきている。人数の統計はとっていないが、村民の参加意識が高まり、参加者もなだらかに増加傾向にあるように思われる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民とかたる会	予定どおり実施した	● 【実施時期】継続的に実施 【実施頻度】平成24年度は村内7か所、平成26年度～平成28年度は各年村内4か所で実施(平成24年度以降19回開催) 【実施結果】地域の身近な問題や課題、困っていることなどについて意見交換を行い、村民が必要とする事業を実施した。	住民とかたる会を継続し、村民の意見を各種事業に反映させていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
住民説明会	予定どおり実施した	● 【実施時期・実施頻度】平成27年5月、平成27年9月の計2回 【実施結果】善之木地区ポケットパーク及び久保地区ポケットパークの整備に先立ち、整備内容について地元説明会を開催し、十分な合意形成を図った上で事業を実施した。	事業の実施にあたっては、適切に住民説明会を開催し、住民合意形成を図るとともに、住民意見を事業に積極的に取り入れていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
道志村災害支援分団の設置	予定どおり実施した	● 平成27年に災害支援分団を新たに設け、地域の防災体制の強化を図った。消防団組織が強化され、地域防災機能が向上している。	【組織名】道志村災害支援分団 【組織の概要】消防団OBを団員とした組織で、平成28年12月現在、35名が活動している。	消防団活動の継続に向けて、活動しやすい環境づくりに取り組んでいく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
道志地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	関係課グループリーダー及び主担当職員 (総務課(総務・行政グループ、財政グループ)、産業振興課(産業創造グループ、水源の郷振興グループ)、ふるさと創生推進室)	平成28年12月26日	総務課(財政グループ)(都市再生整備計画主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標3		その他の指標1	
指標名		地域防災施設の強化		道の駅、道志の湯の来場者数		村内の消防団員数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(地域生活基盤施設:広場)ポケットパーク(3箇所)	-	本事業にて2基の耐震性貯水槽を整備し、さらに別事業にて1基の整備を行い、目標値以上の耐震性貯水槽の充足率を達成できた。また、防災備蓄倉庫の整備も進んでおり、地域防災施設の強化が計画的に進んでいる。	◎	富士山世界文化遺産登録の影響もあり、富士山周辺の観光客数が増加している。村でもポケットパーク整備など観光客の受け入れ環境強化とあわせ、観光PRやイベントの開催に積極的に取り組み、富士五湖や富士山に向かう方が多く道志村に立ち寄っている。そのため、道の駅、道志の湯の来場者数が大幅に増加した。	○	全国的に消防団員の確保が難しくなる中で、防災施設の整備に伴い、村民の防災意識が高まり、防災活動が活発化している。平成23年度以降、消防団員数が減少傾向にあったが、災害支援分団の設置が行われ、積極的な活動への参加が進み、消防団員数が増加した。
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)無停電装置	-		-		○	
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)防災備蓄倉庫	-		-		○	
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)耐震性貯水槽	◎		-		○	
提案事業	(地域創造支援事業)無停電装置	-		-		○	
	(事業活用調査)事業効果分析調査	-		-		-	
関連事業	国道413号線整備改良	-		-		○	
	施設間連絡道池之原線改良舗装	-		-		○	

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	災害時に防災施設を有効に活用できるよう、防災体制の充実に取り組む。	観光PRやイベント開催に継続して取り組むとともに、道路網の整備に取り組み、交流人口の増加を図る。	防災意識の向上や活動への積極的な活動に向けてのPR、環境改善に取り組み、地域防災力の向上を図る。
-------	-----------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1											
指標名		防災体制に対する村民の満足度											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(地域生活基盤施設:広場)ポケットパーク(3箇所)	△	前回のアンケート調査の前に実施した事業に比べ、今回実施した事業は日常利用したり、目にすることが少ない施設であったことから、地域の防災機能が向上したことが十分に認識してもらえず、想定した満足度の向上が得られなかった。村で取り組んでいる防災対策を広報等で周知することが必要であった。	IV									
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)無停電装置	△											
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)防災備蓄倉庫	△											
	(地域生活基盤施設:地域防災施設)耐震性貯水槽	△											
提案事業	(地域創造支援事業)無停電装置	△											
	(事業活用調査)事業効果分析調査	-											
関連事業	国道413号線整備改良	△											
	施設間連絡道池之原線改良舗装	△											

※目標未達成への影響度
 ××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -:事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類I:内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類II:外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類III:外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類IV:内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>村で取り組んでいる防災対策の内容をPRし、防災体制に対する村民の満足度や防災意識の向上につなげる。</p> <p>また、道路整備や防災施設の充実といったハード整備、防災体制の充実などのソフト面の取り組みにより地域の防災機能の向上を図り、誰もが安心して暮らせる村づくりを推進する。</p>			
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
道志地区都市再生整備計画事後評価庁内検討会議	関係課グループリーダー及び主担当職員 (総務課(総務・行政グループ、財政グループ)、産業振興課(産業創造グループ、水源の郷振興グループ)、ふるさと創生推進室)	平成28年12月26日	総務課(財政グループ)(都市再生整備計画主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域住民の生活環境に対する不安を解消するための、防災施設の充実、体制の強化	・耐震性貯水槽や防災備蓄倉庫の整備が計画的に進んでいる。	・道路の寸断や集落の孤立などの恐れがあり、防災対策整備が急務である。	・景観計画に位置付けられた施策を推進することにより、地域の魅力の向上を図り、地域活性化につなげていく必要がある。
観光客に対して安心・安全を提供するための、地域防災整備	・道の駅に無停電装置が整備され、災害時の観光客の受入体制が確保された。	・災害時に観光客等の安全を確保するために、状況の把握と速やかな避難体制の確立、避難場所等の周知が必要である。	
近隣市へ通じる一級村道などの幅員が狭く、地域住民の生活に支障をきたしている		・国道413号の野原・月夜野間は道幅が狭く、急カーブが続いており、交通安全上問題がある。 ・村道は、幅員4m未満の道路が多く、未舗装・未改良の区間があり、地域住民の生活に支障をきたしている。	
整備した基盤施設をいかした活動や村民意識の向上	・各地区で防災訓練が実施され、整備した施設を災害時に有効に活用するための取り組みが行われている。	・消防体制について、人口減少に伴い消防団員の確保が課題となっており、消防団活動の充実に向けた対策が必要である。 ・村民意識の向上に向けて地域の防災まちづくり活動を活性化させる必要がある。 ・避難場所の見直しと周知徹底が必要である。	
自然をより多くの人に知らしめ、さらに見せる景観の整備に力を入れた景観計画策定	・景観計画が策定され、景観行政を推進するための仕組みが整った。		
大学との連携による村の地域資源を生かした地域活性化の推進	・山梨県立大学やフェリス女学院と連携した地域活性化の取り組みが行われている。		

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	防災施設の充実	・防災備蓄倉庫の備蓄品について、数量や配置を把握し、年度ごとに充実する。	・備蓄品の充実
	観光客に対するの安心・安全の提供	・整備した防災施設を適切に管理し、災害時に有効に活用できるようにする。	・防災施設の維持管理
	整備した基盤施設を活かした活動や村民意識の向上	・災害時に適切な活動ができるよう、防災訓練で住民への周知を図るとともに、村民意識の向上を図る。	・防災訓練の実施
	自然をより多くの人に知らしめ、さらに見せる景観の整備	・景観計画に基づいて、建築行為等の規制・誘導を行うとともに、豊かな自然環境を活用した景観づくりを推進する。	・景観行政の推進
	大学との連携による村の地域資源を活かした地域活性化	・大学との連携による取り組みを継続して行い、地域活性化につなげていく。	・大学との連携による取り組みの強化

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	道路の寸断や集落の孤立に対する対応	・災害発生個所の把握や・監視に努め、防災対策事業を促進する。 ・防災無線施設の整備や告知端末の全戸設置、一時避難所の整備を推進する。	・治山事業や河川改修、砂防事業の促進 ・防災無線施設、告知端末の整備 ・一時避難所の整備
	災害時の観光客等の安全確保	・観光客等に対して、日頃から避難場所等について積極的に周知する。	・避難場所等の周知方法の検討 (スマートフォンの活用など)
	幅員の狭い道路の安全確保や生活環境の改善	・国道413号の改良整備を促進し、幹線道路の機能向上を図る。 ・交通量や地元要望を考慮して、村道の改良や舗装を計画的に推進する。	・国道413号道志バイパスの整備促進 ・村道の改良・拡幅・更新 ・歩道整備とバリアフリー化の促進
	消防団活動や防災まちづくり活動の充実、避難場所の見直しと周知	・消防団員の確保を図るため、団員の処遇改善や活動しやすい環境づくりに取り組む。 ・住民による防災まちづくり活動(避難経路の点検など)を促進する。 ・地域防災計画を見直し、一時避難場所や避難経路を明確にする。	・消防団員の確保対策 ・住民の防災まちづくり活動の支援 ・地域防災計画の見直し
	景観づくりによる地域の魅力の向上と地域活性化	・景観計画に位置付けている様々な施策を推進することにより、地域の魅力の向上を図り、地域活性化につなげていく。	・景観施策の推進

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
				年度		年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	防災体制に対する村民の満足度	%	48.2	H23	53	H28	確定	○	35.7	×	あり	→	-	-	
							見込み				なし				
指標2	地域防災施設の強化	%	79	H23	82	H28	確定	○	84	○	あり	→	-	-	
							見込み				なし				
指標3	道の駅、道志の湯の来場者数	万人	80	H23	81	H28	確定		86	○	あり	→	H29.4	村産業振興課資料より、平成28年度の来場者数を計測し、確定値とする。	
							見込み	○			なし				
指標4							確定				あり	→			
							見込み				なし				
指標5							確定				あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標1	村内の消防団員数	人	170	H23			確定	○	172			→	-	-	
その他の数値指標2							確定					→			
その他の数値指標3							確定					→			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	事業の実施により期待した効果が得られ、数値目標を達成することができた。	数値目標に関しては、今後も向上を目指し、「快適で安心してすごせる郷づくり」に取り組んでいく必要がある。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	住民にわかりやすい数値目標を設定し、事業効果を明確に示すことができた。	数値目標の設定にあたっては、目標と数値目標の整合性を十分検討し、幅広い観点から事業の効果を評価できるものとする必要がある。
	うまくいかなかった点	「道の駅、道志の湯の来場者数」については、富士山世界文化遺産登録が数値の向上にどの程度影響しているのか、分析することが困難である。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		住民参加や情報公開を積極的に行い、事業実施後の協働のまちづくりへと展開していく必要がある。
	うまくいかなかった点	本事業での防災施設の整備が十分に周知されず、防災に対する村民の満足度の向上につながらなかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	計画期間の中で、必要に応じて内容の見直しを行いながら、適切に事業を実施することができた。	必要な改善点は速やかに改善し、効果的な事業を実施していく必要がある。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・都市再生整備計画事業の活用予定
なし
- ・事後評価を予定している地区
なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	村ホームページに事後評価原案を掲載	平成29年2月1日～ 平成29年2月14日	平成29年2月1日～ 平成29年2月14日	担当課への郵便、 ファックス、Eメール等	総務課(都市再生整備 計画主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	村ホームページおよび総務課 窓口で原案を公表している旨 を広報に掲載	平成29年2月1日発行 広報2月号	平成29年2月1日～ 平成29年2月14日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	窓口閲覧	平成29年2月1日～ 平成29年2月14日	平成29年2月1日～ 平成29年2月14日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	前田 昭彦 (都留文科大学文学部社会学科教授)	平成29年2月27日	総務課(都市再生整備計画主管課)	道志村事後評価委員会設置運営要綱	独自に設置
その他の委員	杉本 孝正 (道志村議会議員) 北浦 晋 (道志村消防団団長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価手続きは適切に実施されていることが確認された。
	成果の評価	・「防災体制に対する村民の満足度」は、今回実施したアンケート調査では数値目標を達成できなかったが、防災施設の整備は防災機能の向上に対して大きな意義がある。事業内容を住民に周知していくことにより、満足度が向上することが期待できるとの意見があった。
	実施過程の評価	・整備したポケットパークや防災備蓄倉庫の活用にあたっては、防災訓練等を実施する中で施設の周知や住民との協働での取り組みを強化していくことが重要であるとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・「防災体制に対する村民の満足度」に関しては、東日本大震災の発生による住民の不安感の高まりも影響しているのではないかとこの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表に関して、事後評価シートの公表だと住民には少し難しいので、今後は分かりやすい形での公表を検討していく必要があるとの意見があった。
	その他	・ポケットパークについて、観光客の利用目的や利用価値を明確にし、存在意義を説明できるようにしていく必要があるとの意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・ポケットパークについては、サイン整備などにより観光客にもわかりやすい環境整備が必要であるとの意見があった。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・施設の整備にあたっては、必要な箇所数等を明確にし、計画的に進めていく必要があるとの意見があった。 ・ポケットパークに遊具を設置する場合には、災害時の利用に支障が出ないように、設置場所等を検討する必要があるとの意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・防災施設の整備にあたっては、なぜその地区を優先して整備していくのかという理由を明確にし、住民に説明できるようにしていくことが必要であるとの意見があった。	

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山梨県	市町村名	道志村	地区名	道志地区	面積	980 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標
大目標： 快適で安心してすごせる郷づくり
目標1 誰もが安心してすごせる村づくり
目標2 村における良好な生活環境の創造

目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本村は明治30年、神奈川県横浜市の近代水道の水源となり、横浜市は大正5年に村内の恩賜県有林を買収し、水源涵養林として管理を続けている。 ・大正9年には、台風災害により多くの死傷者と建物被害を受けたが、現在は村内28キロに26の集落を形成している。 ・昭和40年代から観光施設の整備を行い、昭和50年代には山梨県初の夏季学生村民宿の導入を始め、横浜市と協同の「山村と都市協同モデル事業」を実施するなど、農業、林業、養蚕の主産業から都市との交流による観光産業へと転換した。近年では、温泉施設、そば打ち体験施設や道の駅をはじめ、民間のオートキャンプ場の整備により、京浜方面から年間110万人の観光客が訪れている。 ・平成14年からは、地域資源を活用した小・中学生を対象に自然体験学習事業や横浜市民による森林ボランティア事業など、本村特有の地域資源を活用した事業に取り組んでいる。 ・近年は観光客の増加に伴い、交通量も増加してきており交通事故も多発している。地域住民の「安心・安全な暮らし」を図ることが必要である。 ・平成18年度総合計画策定に伴う「村民アンケート」結果では、生活道路網の生活環境整備と昭和54年東海沖地震の強化地域に指定されていることから防災対策に対する不安が高く、これらの整備が急務である。 ・平成19年から5か年をかけて都市再生整備計画による交付金事業(旧まちづくり交付金)により、道路や防災施設、医療施設等の整備を進めるとともに安心安全な住環境づくりも進めている。 ・平成23年台風12号、15号などの災害により、道路の損壊などの被害も出ている。

課題
<p>快適で安心してすごせる郷づくりを推進するためには、地域における防災性・安全性の充実と住環境の整備が課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の生活環境に対する不安を解消するためにも、防災施設の充実体制の強化を図る必要がある。 ・自然環境を求めて訪れる多くの観光客に対して安心・安全を提供するためにも、地域防災整備する必要がある。 ・近隣市へ通ずる1級村道など未だ幅員が狭いため地域住民の生活に支障をきたしている。 ・基盤整備は進んでいるいるが、未だ課題が残るとともに、今後は整備した基盤整備をいかした活動や村民意識の向上、高揚を図る必要がある。 ・大規模開発の可能性が低い道志村では、行為の制限よりも豊かな自然をより多くの人に知らしめ、さらに観せる景観の整備に力をいれた景観計画策定が望まれる。 ・大学との連携による村の地域資源を生かした地域活性化の推進を図る。

将来ビジョン(中長期)
<p>道志村総合計画では、次の7つの基本方針(施策体系)に基づきむらづくりを推進していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美しい環境のむらづくり 2. 安心・安全なむらづくり 3. 新たな産業基盤のあるむらづくり 4. 交流基盤の整ったむらづくり 5. ぬくもりのある安心なむらづくり 6. 豊かな心を育てるむらづくり 7. 自立と協働のむらづくり <p>むらづくりの基本計画として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全なむらづくり」として防災施設の整備、防災体制の充実が位置付けられている。 ・「交流基盤の整ったむらづくり」では、快適な住環境の整備として道路網の整備が位置付けられている。

目標を定量化する指標							
指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
防災体制に対する村民の満足度	%	防災性・安全性・医療体制等の満足度	安心・安全なむらづくりに対する指標	48.2	23	53	28
地域防災施設の強化	%	耐震性貯水槽の充足率	防災対策に対する指標	79	23	82	28
道の駅、道志の湯の来場者数	万人	公共の施設利用者	交流人口の拡大を計測する指標	80	23	81	28

都市再生整備計画(第3回変更)

道志地区

山梨県 道志村

平成27年11月

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 誰もが安心してすごせる村づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活利便性の向上のため、村道の拡幅及び舗装整備する。 ・災害時に備えた耐震性貯水槽を整備する。 ・災害時や救急医療体制に備えた、無停電装置を整備する。 ・村民体育館の耐震補強を行う。 ・東西に28kmと細長地形のため、防災備蓄倉庫を地域の拠点に整備する。 ・魅力ある観光ルートの形成やサービス施設の整備など観光客の受入れ環境の推進を行なう。 ・今後のまちづくりを検討するための事業効果分析に関する調査を行なう。 	<p>地域生活基盤施設／基幹事業: 広場(ポケットパーク) 地域生活基盤施設／基幹事業: 無停電装置 地域生活基盤施設／基幹事業: 耐震性貯水槽 地域生活基盤施設／基幹事業: 防災備蓄倉庫 地域生活基盤施設／提案事業: 無停電装置 事業活用調査／提案事業: 事業効果分析調査</p> <p>関連事業／国道 413号改良 関連事業／施設間連絡道池之原線改良舗装</p>
<p>整備方針2:</p>	
<p>その他</p>	

